

## be動詞・一般動詞

○下線部に適するbe動詞を書きなさい。

1 (A) I \_\_\_\_\_ a teacher in those days.

---

---

2 (A) \_\_\_\_\_ your mother still there now?

---

---

3 (A) You \_\_\_\_\_ not at home then.

---

---

4 (A) I \_\_\_\_\_ usually in my room when I come home from school.

---

---

5 (A) Kenji's brothers \_\_\_\_\_ absent from school yesterday.

---

---

6 (A) Keiko and I \_\_\_\_\_ late for the meeting every week.

---

---

7 (A) It'll \_\_\_\_\_ sunny tomorrow.

---

---

# be動詞・一般動詞

関連問題

1 was (私は当時、教師でした。)

・本問の主語はI(私は)で、in those days(その当時)は過去を表す表現(Aランク)である。過去を表す表現はほかに、last～(前の～)、～ago(～前に)、yesterday(昨日)、yesterday afternoon(昨日の午後)、this morning(今朝)、then(そのとき)などがある。

be動詞の文  
→1～7

## まとめ1 be動詞の決定と用法

・be動詞は主語と時制で決まる。

- ・主語が、 ①I →(現在)am (過去)was
- ②youまたは複数 →(現在)are (過去)were
- ③(Iとyou以外の)単数 →(現在)is (過去)was

・be動詞の用法は以下の3つである。

①「～です」

②be動詞+形容詞

※形容詞…人や物の様子や状態を表す語。

(例) old(古い)、interesting(おもしろい)、tired(疲れた)など

③「(場所を表して)～にいます、あります」

2 Is (あなたのお母さんは今もまだそこにいるのですか。)

・**主語は日本文の「～は」「～が」に当たるもの、または動詞の主を表すもの**である。

本問の主語はyour mother(あなたのお母さんは)で、(I, you以外の)単数である。よくある間違いとして、your(あなたの)を主語と考える間違い。そこにいるのは「あなた」ではなく「あなたのお母さん」である。

・now(今)は現在を表すので、答えはIsとなる。

be動詞(疑)  
→  
2,15,18,37  
,50

3 were (あなたはそのとき家にいませんでした。)

・主語はyou(あなたは)、then(そのとき)は過去を表す表現である。

be動詞(否)  
→3,15,18

4 am (私は、学校から帰宅すると、たいてい自分の部屋にいます。)

・主語はI(私は)。

・接続詞whenのかたまりが現在形であることから、時制は現在である。

・come home(帰宅する)はAランクの重要熟語。同意表現にgo home, get homeなどがある。

(接)when  
→  
4,8,215,22  
3

5 were (健二の兄弟は昨日学校を欠席しました。)

・主語は「健二の兄弟は」で複数形になっていることを見落とさないように。yesterday(昨日)は過去を表す表現である。

・be absent from～(～を休む、欠席する)はAランクの重要熟語。

過去を表す  
語句→1

be absent  
from→  
5,479

6 are (恵子と私は毎週その会合に遅刻します。)

・主語はKeiko and I(恵子と私は)で、every week(毎週)は現在を表す。

・be late for～(～に遅れる、遅刻する)はAランクの重要熟語。

7 be (明日は晴れるでしょう。)

・主語はItでこの場合、日本語には直さない。

・It'llはIt willの短縮形である。willは助動詞なので、後ろの動詞は原形になる。

(助)will→  
84,99,101,  
105,120,1  
22,123

○あとの（ ）内の語を適する形に変え下線部に書きなさい。なお、変える必要がない場合はそのまま書きなさい。

8 (A) My sister \_\_\_\_\_ the piano with my mother when she is at home. (play)

---

9 (A) Ken \_\_\_\_\_ to his teacher last month. (write)

---

8 plays (姉は家にいるとき、母とピアノを弾きます。)

- ・本問はplayを使うので一般動詞の文である。
- ・接続詞whenのかたまり(彼女が家にいるとき)は現在の内容なので、時制は現在である。
- ・主語は「My sister : (私の)姉は」で、3人称(I, we, you以外)の単数である。つまり本問は、一般動詞・現在形・3単現の文である。したがって、答えはplaysとなる。
- ・「at home : 家に、家で」はAランクの熟語。

一般動詞の文→8~14  
(接)when →  
4,8,215,223

## まとめ2 be動詞と一般動詞、3単現

- ・be動詞…am, are, is, was, were  
(①～です、②be動詞+形容詞、③(場所を表して)～にいます、あります)
- ・一般動詞①動作を表すもの : play(～をする)、write(～を書く)、go(行く)、help(～を助ける)など  
②状態や内心を表すもの : like(～が好きだ)、want(～がほしい)、belong(属している)など
- ・一般動詞の文は、①現在形・ふつうの文、②現在形・3単現の文、③過去形の文の3種類ある。  
**①②と③は現在の内容か過去の内容かで区別する。**  
一方、①と②の区別は主語を見なければならない。**主語が3人称・単数以外なら「ふつうの文」で、主語が「3人称・単数」なら「3単現の文」である。**  
つまり、**be動詞の文も一般動詞の文も、主語と時制を考えなければならない。**  
※「3人称・単数」…「3人称」とは「私」と「あなた」以外の人や物のことで、主語なら、I, we, you以外はすべて3人称である。また、「単数」とは、1つの物、1人の人のことである。
- ・「3単現の文」では一般動詞の語尾にsやesをつけなければならない。
- ・3単現のsのつけ方  
①s, sh, ch, x, oの後ならesをつける。  
②「子音字(母音字a, e, i, o, u以外)+y」で終わるならyをiに変えてesをつける。  
③haveはhasになる。  
④それ以外はそのままsをつける。

9 wrote (健は先月彼の先生に手紙を書きました。)

- ・「last month : 先月」は過去を表す表現なので、答えはwroteである(**過去の場合は、主語に関係なく常に過去形が答えとなる**)。
- ・過去形の作り方は2種類あり、**edをつけて過去形を作る動詞を規則動詞、edをつけずに不規則に変化する動詞を不規則動詞という。**

過去を表す語句→1

---

10 (A) Our classroom \_\_\_\_\_ two doors, but we usually use only the front one .  
(have)

---

11 (A) Did you \_\_\_\_\_ about her well? (know)

---

12 (A) Their son \_\_\_\_\_ after taking a bath every day. (study)

---

13 (A) I didn't \_\_\_\_\_ judo yesterday. (practice)

---

14 (A) Is your brother \_\_\_\_\_ a cake in the kitchen? (make)

---

### まとめ3 過去形の作り方

関連問題

・規則動詞(edをつけて過去形を作る動詞)

①(発音しない)eで終わるならdだけをつける。

②「子音字(母音字a, e, i, o, u以外)+y」で終わるならyをiに変えてedをつける。

③「(アクセントのある)短母音+子音字」で終わるなら子音字を重ねてedをつける。

※「短母音」…その名の通り「短い母音」である。「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」と短く読む母音のこと

④それ以外ならそのままedをつける。

・不規則動詞(edをつけずに不規則に変化する動詞)

その名の通り、不規則に変化するので、暗記するしかない。以下に一例を挙げておく。

go(行く)→went、 have(～を持っている)→had、 write(～を書く)→wrote、

see(～を見る)→sawなど

10 has (私たちの教室にはドアが2つありますが、私たちはたいてい、前のドアしか使いません。)

・主語はOur classroom(私たちの教室には)で、3人称(I, we you以外)の単数である。but以下が現在形であることから、時制は現在である。よって答えはhasとなる。なお、**haveに「～がある、いる」という意味があることは重要。**

・「usually : たいてい」は**頻度を表す副詞で、一般動詞の前かbe動詞・助動詞の後に置く。**頻度を表す副詞は他に、always(いつも)、often(よく、しばしば) sometimes(ときどき)、never(決して～ない)がある。

「～がある」の文→  
10,30,43,2  
48,521,70  
3

副詞の位置→  
10,195,41  
1,436,445,  
446

11 know (あなたは彼女のことをよく知っていましたか。)

・一般動詞の疑問文・否定文では、動詞は常に原形なので、答えはknowとなる。

一般動詞(疑)→  
11,16,17,1  
9,26~29,3  
5,41

12 studies (彼らの息子さんは毎日、お風呂に入った後に勉強します。)

・主語はTheir son(彼らの息子さんは)で、3人称(I, we, you以外)の単数である。every week(毎週)は現在を表す表現なので、答えはstudiesとなる。studyは「d(子音字)+y」で終わるので、yをiに変えてesをつける。

・「after+～ing : ～した後で」は「前置詞+動名詞」のAランクの重要表現。

・「take a bath : お風呂に入る」はAランクの重要表現。

3単現の形の作り方→まとめ2

13 practice (私は昨日柔道を練習をしませんでした。)

・11の解説の通り、一般動詞の疑問文・否定文では、動詞は常に原形なので、答えはpracticeとなる。

一般動詞(否)→  
13,16,17,1  
9,38,47

14 making (あなたのお兄さんは台所でケーキを作っているのですか。)

・be動詞Isで疑問文を作っているところから、進行形の文であることを見抜く。進行形は「be動詞+～ing」で作るので、答えはmakingとなる。makeやmakesと誤った者は、まだ見るべきところ(Doesで疑問文を作っていない)が身につけていないので、問題文のどこに注意して解けばいいのかをしっかりと身につける必要がある。

進行形(疑)→81,83,93

○次の英文を①疑問文にして、( )内の語で答える英文を書きなさい。また、②否定文にしなさい。

---

15 (A) You're at home.

① \_\_\_\_\_

(yes) \_\_\_\_\_

② \_\_\_\_\_

---

16 (A) Tatsuya sings well.

① \_\_\_\_\_

(no) \_\_\_\_\_

② \_\_\_\_\_

---

15 ①Are you at home? (あなたは家にいますか。)

Yes, I am. (はい、います。)

②You are not at home. (あなたは家にいません。)

・**be動詞の疑問文はbe動詞を文の初めに置く。** be動詞(are)を文の初めに置くと、「Are you〜?」となる。

・**疑問文に答えるには、①疑問文の主語を言いかえる。** 疑問文の主語youをIに言いかえる(「あなたは〜ですか。」と聞かれた者は「私は〜です。」と答える)。

次に、**②疑問文の初めにある語を見る。** 本問はbe動詞があるのでbe動詞で答える。

・**be動詞の否定文はbe動詞の後にnotを置く。** be動詞(are)の後にnotを置くと、are notとなる。

・短縮形「You're」や「aren't」を使ってもよい。

be動詞  
(疑)(否)→  
2,3,15,18,  
37,50

16 ①Does Tatsuya sing well? (達也は上手に歌いますか。)

No, he doesn't. (いいえ、歌いません。)

②Tatsuya doesn't sing well. (達也は上手に歌いません。)

・**一般動詞の疑問文は文の初めにDo / Does / Didを置く3パターンがある。現在形ならDo(ふつうの文)かDoes(3単現の文)、過去形ならDidとなる。そして必ず動詞は原形となる。**

・疑問文の主語「Tatsuya(男)」を「he」に言いかえる。疑問文の初めにDoesがあるのでdoesを使って答える。

・**一般動詞の否定文は一般動詞の前にdon't / doesn't / didn'tを置く3パターンがある。現在形ならdon't(ふつうの文)かdoesn't(3単現の文)、過去形ならdidn'tとなる。そして必ず動詞は原形となる。**

一般動詞  
(疑)(否)→  
11,13,16,1  
7,19,26~2  
9,35,38,41

#### まとめ4 疑問文と否定文

・**中学校で習う英文は4種類しかない。**

①**be動詞の文**、②**一般動詞の文**、③**助動詞の文**、④**現在完了の文**である。(他にも第1文型～第5文型などの分類の仕方があるが、疑問文と否定文を考える上では、上記の4種類と考えると整理しやすい。)まずは①be動詞の文と②一般動詞の文の疑問文と否定文をまとめておく。(③助動詞の文と④現在完了の文については各単元で説明する。)

・be動詞の文 疑問文：be動詞を文頭に置く。

否定文：be動詞の後にnotを置く。

・一般動詞の文 疑問文 ①現在形・ふつうの文：Doを文頭に置き、動詞は原形のまま。

②現在形・3単現の文：Doesを文頭に置き、動詞を原形に。

③過去形の文：Didを文頭に置き、動詞を原形に。

否定文 ①現在形・ふつうの文：一般動詞の前にdon'tを置き、動詞は原形のまま。

②現在形・3単現の文：一般動詞の前にdoesn'tを置き、動詞を原形に。

③過去形の文：一般動詞の前にdidn'tを置き、動詞を原形に。

一般動詞の文は、疑問文と否定文を作るとき、それぞれ3種類あるので注意する。

## 比較

○次の文を、( ) 内の意味を付け加えて書きかえなさい。

17 (A) This book is easy. (あの本よりも)

---

---

18 (A) Russia is a big country. (世界で一番)

---

---

# 比較

関連問題

17 This book is easier than that book(/one). (この本はあの本よりも簡単です。)

- ・比較の問題はまず、「何級」の問題かを考える。また、比較級や最上級という変化をするのは形容詞や副詞である。一般動詞や名詞が比較級や最上級になることは絶対にない。
- ・本問は「あの本よりも(than that book(one))」を付け加えるので、比較級の問題である。easyは子音字+yで終わる語なのでyをiに変えてer(easier)と変化する。

比較級(基本)→  
251,253,255,256,268,272~274,277,280,282,381  
  
比較級/最上級になる語→254

## まとめ15 比較を表す表現と変化のしかた

### 1、何級の文であるかの判別方法

- ①2つ(2人)を比べるとき、または後に「than」があるとき→比較級
- ②3つ(3人)以上の中で「一番～、最も～」というとき。前にtheがある、または後にinやofがあるとき→最上級
- ③「as～as…」があるとき、「同じくらい」を表すとき→原級

### 2、比較級・最上級の変化のしかた

- ①ふつうの語 →語尾に「-er / -est」をつける(規則変化※)
  - ②つづりの長い語 →前に「more / most」を置く
  - ③good, well, many, much, bad, ill, littleの場合 →不規則変化する  
→good/well–better–best, many/much–more–most,  
bad/ill(病気の)–worse–worst, little–less–least
- ※規則変化のしかたは、
- 「eで終わる語」は「r/st」をつける
  - 「子音字+yで終わる語」は「yをiに変えてer/est」をつける
  - 「短母音+子音字で終わる語」は「子音字を重ねてer/est」をつける
- それ以外はそのままer/estをつける、この4パターンである。

比較を表す表現は、この1→2の順で考えるとよい。つまり、まずは何級の文であるかを考え、その次にどう変化させればよいかを考える。それを意識して以下の解説を読むと整理しやすい。

比較級(基本)→  
251,253,255,256,268,272~274,277,280,282  
  
最上級(基本)→  
252,257,266,267,283

18 Russia is the biggest country in the world. (ロシアは世界で一番大きい国です。)

- ・「一番～」となるので最上級の問題である。bigは短母音+子音字で終わる語なので、子音字を重ねてest(biggest)と変化する。
- ・最上級には前に「the」を置かなければならない。そしてaとtheを並べることはできないので、もともとあったaはなくなり、代わりにtheを置くことになる。
- ・最上級の文では「～の中で」という表現をよく使うが、英語ではofを使う場合とinを使う場合がある。後ろに**複数を表す語が続いていればof、単数が続いていればinを使う**。本問では、「世界：the world」は単数なので、inを使っている。

最上級(基本)→  
252,257,266,267,283  
  
冠詞の絶対的ルール→  
158

---

19 (A) It's hot today. (昨日よりも)

---

---

20 (A) My friend Emi looks young. (私と同じくらい)

---

---

21 (A) This story is popular. (あの物語よりも)

---

---

22 (A) I have many books. (彼よりも)

---

---

23 (A) Kenta swims well. (クラスのすべての少年の中で一番)

---

---

19 It's hotter today than yesterday. (今日は昨日よりも暑いです。)  
 ・「昨日よりも(than yesterday)」を付け加えるので、比較級の問題。hotは短母音+子音字で終わる語なので子音字を重ねてer(hotter)と変化する。

比較級(基本)→  
 251,253,255,256,268,272~274,277,280,282,381

20 My friend Emi looks as young as I. (私の友達の恵美は、私と同じくらい若く見えます。)  
 ・「…と同じくらい～」はas~as…なので原級の問題。  
 ・そもそも比較の単元は、形容詞や副詞の「どう変化するかを考える単元だが、「どの単語が形容詞や副詞かわからない！」という人のための解説をしておく。  
 比較級の文であれば「よりどうなのか」、最上級の文であれば「一番どうなのか」、原級の文であれば「同じくらいどうなのか」を考えよう。その「どうなのか」の部分に当たる語が形容詞であり副詞である。  
 251は「あの本より簡単」なのであり、252は「一番大きい」のであり、253は「昨日より暑い」のである。本問は「同じくらい若い」ので、「若い: young」(形容詞)を原級で使うことになる。  
 ・比較級の文での「than～」や原級の文での「as~as…」の後に代名詞が来るときは**主格**を使うことになる。口語では目的格を使うこともよくあるが、答えを書くときは主格にしておいた方が無難。本問は「私より」を「than I」としている。

as原級  
 as(基本)→  
 254,258,259,271,274,277  
 代名詞→まとめ8

21 This story is more popular than that story(/one).  
 (この物語はあの物語よりも人気があります。)  
 ・「あの物語よりも人気がある」なので、「人気がある(popular)」(形容詞)を比較級にする。popularはつづりの長い語なので、前にmoreを置いて、more popularと変化する。

比較級(基本)→  
 251,253,255,256,268,272~274,277,280,282,381

22 I have more books than he. (私は彼よりも多くの本を持っています。)  
 ・「彼よりも多くの(本を持っている)」なので、「多くの(many)」(形容詞)を比較級にする。manyは不規則変化する語で、比較級はmoreと変化する。  
 ・thanの後の代名詞は主格なので、than heとする。

23 Kenta swims the best of all the boys in his class.  
 (健太はクラスのすべての少年の中で一番上手に泳ぎます。)  
 ・「一番上手に」なので、「上手に(well)」を最上級にする。wellは不規則変化する語で、最上級はbestとなる。  
 ・「クラスのすべての少年」は複数を表す語句なのでofを使う。なお、「all boys」とtheを省略することができる。また「クラスの」は「in the class」などでも可。  
 ・「クラスのすべての少年(all the boys in his class)」の順序を逆にしてしまう、あるいはこの順になる理由がわからないと言う人のために、前置詞の解説をしておく。  
 まず、「クラスの(in his class)」と「すべての少年(all the boys)」とかたまりを分けて考える。「クラスの」は「すべての少年」を説明している。**前置詞で説明するときは後ろから説明する**ので、英語に直すと「クラスの」を後ろに置くのである(all the boys **in his class**)。これを理解するには日本語を読み取る力が必要になってくる。国語の力が英語の点数に影響すると言われるのは、このことを言っているのである。ふだんから正しい日本語を使うようにして正しい日本語で書かれた本を読み、ストーリーではなく日本語を読む。そういった練習で養わなければならない部分である。

最上級(基本)→  
 252,257,266,267,283

---

24 (A) I want to get many cards. (あなたと同じくらい)

---

---

25 (A) English isn't difficult. (フランス語ほど)

---

---

26 (A) Canada is large. (日本よりはるかに)

---

---

27 (A) I can swim well. (私の兄よりも少し)

---

---

28 (A) Yuki studies English hard. (私たちのクラスのどの生徒よりも)

---

---

29 (B) This bridge is long. (あの橋の3倍)

---

---

30 (A) This is a large zoo. (世界で最も大きい動物園の一つ)

---

---

31 (A) I like winter. (夏よりも)

---

---

24 I want to get as many cards as you.

(私はあなたと同じくらいたくさんカードを手に入れたいです。)

- ・「同じくらい**たくさん**の(カード)」なので、「たくさん(many)」を原級で使う問題である。
- ・「as～as…」の間には形容詞や副詞の原級が入るが、本問のように「**形容詞+名詞(many books)のかたまりになっているときは、そのかたまり全部をas～as…の間に入れる**ことになる。いつもの感覚で、「as many as」などとすると誤りである。

as原級  
as(基本)→  
254,258,2  
59,271,27  
4,277

25 English isn't as difficult as French. (英語はフランス語ほど難しくありません。)

- ・「**～ほど…でない**」は、「**否定文+as～as…**」を使う原級の文である。
- ・「フランス語ほど**難しく**ない」なので、「難しい(difficult)」(形容詞)を原級のまま置く。

26 Canada is much larger than Japan. (カナダは日本よりはるかに大きいです。)

- ・「日本より**大きい**」なので、「大きい(large)」(形容詞)を比較級にする。
- ・「はるかに～、ずっと～」と比較級を強調するときは、「much+比較級」で表す。

27 I can swim a little better than my brother. (私は兄より少し上手に泳げます。)

- ・「私の兄より**上手に**(泳げる)」なので、「上手に(well)」(副詞)を比較級にする。wellは不規則変化する語なので、betterとなる。
- ・「少し～」と比較級を強調するときは、「a little+比較級」で表す。

比較級(応  
用)→  
260～262,  
276,586

28 Yuki studies English harder than any other student in our class.

(由季は私たちのクラスのどの生徒よりも一生懸命に英語を勉強します。)

- ・「**(他の)どの～よりも**」は、「**比較級+than any other+単数名詞**」で表すAランクの表現。「どの生徒よりも**一生懸命に**(勉強する)」なので、「一生懸命に(hard)」(副詞)を比較級にする。
- ・さらにこの表現は、**最上級を使って言いかえることができる**ことも重要。

Yuki studies English the **hardest** of the (all) students in our class.

(由季は私たちのクラスの(すべての)生徒の中で一番熱心に英語を勉強します。)

29 This bridge is three times as long as that one. (この橋はあの橋の3倍の長さがあります。)

- ・「**〇〇倍…**」は、「**as 原級 as～**」の直前に「**〇〇times : ～倍**」を置く。つまり、「〇〇times as 原級 as～」となる。「〇〇」には通常数字が入り、3倍はthree times、4倍はfour timesなどとなるが、2倍だけはtimesを使わず、twiceとなることに注意する。

as原級  
as(応用)→  
263,275,2  
78,279

30 This is one of the largest zoos in the world.

(これは世界で最も大きい動物園のうちの一つです。)

- ・「**最も～のうちの一つ**」は、「**one of the 最上級+複数名詞**」で表す重要表現。
- ・この問題はThis is the largest…と誤答する人が多い。isの後にone of…と続けられない人は、初めから「**is one of the 最上級+複数名詞**」と覚えることをおすすめする。

31 I like winter better than summer.

- ・**like**の文の**比較級・最上級は常にbetter・best**である。そして、**like**の後は「**何が好きなのか**」を続けるので、「like winter」となっている。

like+better  
/best→  
265,269,2  
70,281



1、比較級を使った表現

- ①基本文は説明を省略する。(251,253,255,256,268,272~274,277,280,282)
- ②like A better than B : BよりAのほうが好きだ (likeの文では比較級は必ずbetterを使う)  
(265,269)

③much+比較級 : ずっと~, はるかに~(260)

④a little+比較級 : 少し~(261)

⑤差を表す語句+比較級

(例) My father is **thirty years older** than I. (父は私より30歳年上です。)

→「30歳年上だ」ということは「30年の差がある」と考える。そしてその後ろに「年をとっている」という形容詞oldを続ける。

・この表現は「by+差を表す語句」を文末に置くことで書きかえることができる。

→My father is older than I **by thirty years**.

⑥比較級+than any other+単数名詞 : 他のどの~より…(262,276)

(例) Ken runs **faster than any other student** in his class.

(健はクラスの他のどの生徒よりも速く走ります。)

・この表現は「最上級」を使って書きかえることができる。

→Ken runs **the fastest** of all the students in his class.

(健はクラスのすべての生徒の中で一番速く走ります。)

⑦比較級 and 比較級 : ますます~, だんだん~(586)

2、最上級を使った表現

- ①基本文は説明を省略する。(252,257,266,267,283)
- ②like A the best of (in)… : …の中でAが一番好きだ(likeの文では必ず最上級はbestを使う)
- ③is one of the 最上級+複数名詞 : 最も~なうちの1つです(264)

(例) Tokyo **is one of the biggest cities** in Japan.

(東京は最も大きい都市のうちの1つです。)

3、原級を使った表現

①基本文は説明を省略する。(254,258,259,271,274,277)

②〇〇times as 原級 as~ : ~の〇〇倍…(263,275)

(例) Mr. Suzuki is three times as old as I. (鈴木さんは私の3歳の年齢です。)

・「〇〇倍」は基本的には「数字+times」で表すが、「2倍」は「twice」となりtimesは使わないので注意する。

③as 原級 as S can : できるだけ~(279)

(例) Tom ran as fast as he could. (トムはできるだけ速く走りました。)

・「S」は主語を表すのでこの場合「he」になっていて、過去形の文なので「could」になっていることに注意する。

・この表現は「as 原級 as possible」という形で書きかえられ、この場合は「S」がなくなること

→Tom ran as fast as possible.

関連問題は  
各解説に記  
載

## 不定詞 (1)

○次の日本語に合うように、下線部に適する語を書きなさい。

32 (A) 私は米を買いに町に行きました。

I went to the town \_\_\_\_\_ .

33 (A) 彼は将来、医者になりたがっています。

He \_\_\_\_\_ a doctor in the future.

# 不定詞 (1)

関連問題

## 32 to buy rice

・「～するために」「～しに」というかたまりを「to+動詞の原形」で作る不定詞・副詞的用法(目的)の問題である。**副詞的用法(目的)は、「～するために」「～しに」のかたまりを文末に置く。**本問は、「米を買いに」がかたまりなので、「to buy rice」を文末に置く。なお、日本語につられて「米を買いに」「rice to buy」などしないように。**不定詞のかたまりは不定詞から始まる**ので、「米を買いに」というかたまりは不定詞 = to+動詞の原形(to buy～)から始めることになる。

不(副・目的)  
→  
284,291,2  
98,300,30  
7,311,513,  
528,544,5  
61

## 33 wants to be(/become)

・「なりたがっています」という動詞のかたまりを「～したい = want to+動詞の原形」で作る不定詞・名詞的用法の問題である。

・本問は3単現の文なので「wants」とすることを忘れないように。

・**不定詞・名詞的用法は「～すること」という意味になるが、使い方が決まっている。**

①**(特定の)一般動詞+to+動詞の原形で作る**場合、②**主語になる**場合、③**be動詞の後に続く**場合の3パターンであり、本問は①のパターンである。

①「(特定の)一般動詞+to+動詞の原形」は「～すること」とは考えず、熟語として覚えた方が早い。

一般動詞+  
不(名)→  
209,285,2  
90,297,30  
4,306,310,  
315,353,3  
55,357,ま  
め18,  
519,539

## まとめ18 一般動詞の後に続く不定詞・名詞的用法

Aランク(285,290,297,(304),306,310,315)

want to+動詞の原形 : ~したい(←することを望む)

like to+動詞の原形 : ~するのが好きだ(←することが好きだ)

start(begin) to+動詞の原形 : ~し始める(←することを始める)

hope to+動詞の原形 : ~することを望む、~できたらいいなと思う

try to+動詞の原形 : ~しようとする(←することに挑戦する)

need to+動詞の原形 : ~する必要がある(←することが必要だ)

decide to+動詞の原形 : ~する決心をする(←することを決心する)

B+ランク

learn to+動詞の原形 : ~できるようになる(←することを学ぶ)

Bランク(レベルアップ8)

remember to+動詞の原形 : 忘れずに~する(←することを覚えている)

forget to+動詞の原形 : ~し忘れる(←することを忘れる)

基本的には( )内の「～すること」という意味を持っているが、ほとんどが「～すること」ではなく特別な訳し方で出題される。「～すること」となっていないくても、例えば「～したい」は名詞的用法だと割り切る必要がある。上記は名詞的用法の形としてそのまま覚えてしまおう。

関連問題は  
各解説に記  
載

---

34 (A) 本を読むことはとても大切です。

\_\_\_\_\_ books \_\_\_\_\_ very important.

---

35 (A) 私はその本を読んでとても悲しくなりました。

I was very \_\_\_\_\_ the book.

---

36 (A) 私の仕事は英語を教えることです。

My work \_\_\_\_\_ English.

---

34 To read, is

- ・「～することは」となる不定詞・名詞的用法が主語になるパターンである。「本を読むことは」は**不定詞のかたまりなので、不定詞から始め**、「To read books」とする(日本語につられて「Books to read」としないこと)。
- ・**不定詞が主語になるときは常に3人称・単数と考える**ので、be動詞は「is」(過去形ならwas)である。「本 (books)」は複数形なのに、areではなくisになるのは、この文の主語は「本」ではなく、「本を読むこと」だからである。

主語になる不  
(名)→  
286,294,5  
25,535  
  
「～すること  
は」→下欄に

35 sad to read

- ・「～して」「～できて」というかたまりを「to+動詞の原形」で作る不定詞・副詞的用法(原因)の問題である。**副詞的用法(原因)は、「～して、～できて」のかたまりを文末に置く**。本問は、「その本を読んで」がかたまりなので「to read the book」を文末に置く。
- ・284の副詞的用法(目的)と本問の副詞的用法(原因)の共通点は、**かたまりを文末に置く**という点である。だからどちらもそのかたまりを正確に見つけられれば、あとはそれを文末に置けばいい。相違点は、まず日本語の意味である。**副詞的用法(目的)は「～するために、～しに」となり、副詞的用法(原因)は「～して、～できて」となる**。また、**副詞的用法(原因)は「感情を表す語+to+動詞の原形」という形になる**。不定詞の用法の中で、「to+動詞の原形」の前に「感情を表す語」があるのはこの用法だけなので用法の判別をするときにもこの知識は使える。(「感情を表す語」についてまとめ13にまとめている)

不(副・原因)  
→  
237,287,2  
96,302,30  
8,313,317,  
529,572  
  
不(副・目的)  
→  
284,291,2  
98,300,30  
7,311,513,  
528,544,5  
61  
  
感情を表す  
語→まとめ  
13 3、  
that ②

36 is to teach

- ・「～すること(です)」となる不定詞・名詞的用法がbe動詞の後に続くパターンである。本問の主語は「私の仕事は」、動詞は「です」なので、「My work is」と始め、その後「英語を教えること」という不定詞・名詞的用法のかたまり「to teach English」を続ける。
- ・285、286、288で不定詞・名詞的用法の3パターンを練習したが、すべて共通して言えることは、「主語と動詞をきちんと見る」ということである。

285、彼は将来、医者になりたいがっています。→主語「彼は」、動詞「りたいがっています」=「～したい」

He wants to be a doctor in the future.

286、本を読むことはとても大切です。

→主語「本を読むことは」=「～することは」=不定詞・名詞的用法が主語になるパターン、  
動詞「です」

To read books is very important.

288、私の仕事は英語を教えることです。

→主語「私の仕事は」、動詞「です」、残りの部分「英語を教えること」=不定詞・名詞的用法の  
かたまり

My work is to teach English.

それぞれ、不定詞が使われている場所は変わるが、名詞的用法はきちんと主語と動詞を見つけられればお  
かしな英文になることはない。

be動詞+不  
(名)→  
283,288,2  
95,354,51  
6,657  
  
不(名)の種  
類→  
285,288

---

37 (A) 図書館には読むべき本がたくさんあります。

There are a lot \_\_\_\_\_ in the library.

---

38 (B) マイクは東京に行く決心をしました。

Mike \_\_\_\_\_ to Tokyo.

---

39 (A) 私は今年、あなたたちに英語を教えるためにこの学校に来ました。

I came to this school \_\_\_\_\_ this year.

---

40 (A) 何か飲む物をいただいてもいいですか。

Can I have \_\_\_\_\_ ?

---

37 of books to read

- ・本問の日本語は、「**読むべき**」という部分が「**本**」を説明している~~と見なければならない~~。「**～すべき**」という部分が**名詞にかかっている**、「**名詞+to+動詞の原形**」で作る。これが**不定詞・形容詞的用法**の文の作り方である。つまり、形容詞的用法では、「**どこの部分が「どの名詞」を説明しているのか**」を見抜かなければならない。ここで本問の日本語をもう一度見てほしい。
- 先程の解説の通り、「読むべき」が「本」を説明している、と見えるだろうか？もしそう見えない人がいるなら、こう考えることもできる。
- 名詞はどれか？→「本」である。では、「どんな本」か？→「読むべき」「本」である。このように「名詞」から考えた方が見つけやすい人はこの方法を使おう。
- いずれにせよ、「読むべき」「本」であることがわかれば、「名詞+to+動詞の原形」にあてはめて、「books to read」という語順が理解できるだろう。あとは、「本がたくさん」あるので、「たくさんの : a lot of」とつなげれば答えとなる。

不(形)→  
289,299,301,305,314,316,521,533

38 decided to go

- ・「行く決心をしました」という動詞を「～する決心をする = decide to+動詞の原形」で作る不定詞・名詞的用法の問題である。

一般動詞+  
不(名)→  
209,285,290,297,304,306,310,315,353,355,357,まとめ18,519,539

39 to teach you English

- ・「あなたたちに英語を教えるために」が「～するために」という不定詞・副詞的用法(目的)のかたまりである。副詞的用法はそのかたまりを文末に置く。
- ・「あなたたちに英語を」は「人に物を」と考え、「人+物」の語順になる。

不(副・目的)→  
284,291,298,300,307,311,513,528,544,561

「人+物」と  
「物+前置詞+人」→下欄に

40 something to drink

- ・「飲む」が「物」を説明している、あるいは「物」が名詞で「どんな物」か→「飲む」「物」と見えただろうか？あとは「名詞+to+動詞の原形」にあてはめて、「something to drink」となる。
- しかし、日本語の感覚として「飲む物」を「飲む」「物」と見ることには少し無理があるかもしれない。上記のように見ることに抵抗がある人は、「**飲む物**」は「**something/anything to drink**」、「**食べる物**」は「**something/anything to eat**」となると、形で暗記してもよい。不定詞・形容詞的用法の頻出問題なのでそのほうが早いかもしれない。
- ・本問は疑問文であるが、「～をいただいてもいいですか」と許可を得る疑問文である。この許可を得る文や、頼む文や勧める文では、疑問文でもsomeやsomethingを使うので、anything to drinkとはならない。
- ・「Can I ~ ? : ~してもいいですか。」は許可を得る文(Aランク)。
- ・以上、284～292が、不定詞の基本3用法の基本事項の確認となる。解説した通りに日本語が正しく見えなければ、不定詞の問題は本当の意味では完成しない。何度も復習して、293以降を利用して実践してもらいたい。

「食ベ(飲み)物」の不(形)→  
292,293,303,309,312,537,559

疑問文で使う  
some(thin  
g)→  
107,111,292,309,312,559,579

「～してもいいですか」→  
119,189,292,579

291の関連問題 「人+物」と「物+前置詞+人」→229,233,236,240,243,249,291,312,398,399,418~420,534,537,559,